

経営感覚は上から

近年、学校現場に対するマネジメントの研修が多くなった。
カリキュラム・マネジメント、組織マネジメント などである。
学校経営、学校運営の技能や感覚を身につけるためのものとする。
そして、管理職や主任層を受講対象者にしている場合が多い。

学校や学年組織を運営できる人材は、①研修と②個人の感覚・資質による育成の2面があるとする。

①は、現在も経年研修や担当者研修の中で行われている。
教員のキャリアを考えると最終的には、経営者として、組織のグラウンドデザインを提示し、他に説明し、行動を起こさせなければならない。
若いうちから、自分が担当している業務を学校全体に位置づけ、学校の一部と考えることが大切である。そして、学校組織の課題、目標、重点を考え、デザインする取り組みを若いうちから取り組む必要がある。簡単に言うと「自分が校長だったら・・・」である。
しかし、ビジョンは校長のリーダーシップのもと提示するものであるために、このような研修は公的にはできないであろう。
ただ、教科や領域、学年のマネジメントは、ぜひ若いうちから意識を持たせて取り組ませ、経営感覚を身につけさせたい。今からでもできる研修と位置づけている。

②は、最も大切とする。
単に与えられた業務をこなすだけでなく、組織（学校）や理念（学校教育目標）といかにつながっているかという感覚を持っているかである。
このためには、
・興味を社会全般へ向け、いかに教員以外の友人と交流し、偏らない広範囲の情報（例えば新聞）と日々触れ合うか。
・①でも触れたが、「自分が経営者だったら・・・」と日々シミュレーションする。
・手帳やノートに出来事やその対応案、アイデアを書き留める。
などが考えられる。

従って、経営感覚は下からと同時に、若いうちから上からの感覚を持つことである。
(自論)